

みさと自主防災報

平成24年12月14日

第16号

発行 三郷市自主防災組織連絡協議会
事務局 三郷市企画総務部安全推進課
〒341-0026
埼玉県三郷市幸房1155
TEL048(952)1294
FAX048(952)6780

ホームページ <http://www.jishubousaikai.com/>

「私たちの街は 私たちが守る」

「自分の命は 自分で守る」



三郷市で初の避難所設営(運営)に特化した訓練 高州・東町地区11町会連合会

私たちの街の避難所は、私たちが設置・運営する!

首都直下地震を想定して、避難所に指定されている小学校を訓練場所にして、体育館内で緊急避難所の設置訓練を実施しました。

三郷市の自主防災会組織率

対象団体数(町会・自治会等の数)…134団体(みさと団地自治会は街区単位)
自主防災会の数…125団体 団体数での組織率…93.3%
組織されている地域の世帯数での組織率…93.6%
全国…74.4%(平成23年11月現在)
埼玉県…83.6%(平成24年4月現在)

新規会員紹介

彦音町会自主防災会
(彦成ブロック)
設立 平成24年2月1日
世帯数 110世帯
役員数 9名

防災活動から地域コミュニティの活性化を

三郷市自主防災組織連絡協議会 会長 中村 智 英



日頃より、各自主防災会の役員を始め市民の皆様方には、地域での自主防災訓練や様々な防災活動にご協力とご理解をいただき、厚く御礼申し上げます。当協議会は、

各々の自主防災組織の情報交換を目的として平成9年に発足し、訓練技術の向上や組織の交流を深めることにより、災害時の被害を軽減すべく活動している組織です。

さて、最近の災害を振り返りますと、今年は台風の上陸数こそ少なかったものの、局所的な豪雨による被害がありました。7月の九州北部豪雨では1時間降水量108ミリ、24時間降水量507ミリという観測史上1位の値を記録し、河川のはん濫や土石流により死者行方不明者が20名を超え、住宅損壊や交通障害等の傷跡を残しました。

近年は発生予測が困難な集中豪雨が多くみられ、当然我々の地域が被災することも考えられます。被災状況を目の当たりにするたびに、行政や消防機関では防ぎきれない大災害の被害軽減には、地域コミュニティ、つまりは自主防災組織による共助体制が必要であると再認識さ

せられます。

また、昨年3月11日の東日本大震災の影響が今なお被災地において残っており、退避している住民を迎え入れるために、生活基盤の復旧に取り組んでいる自治体が数多くあります。東日本大震災は平日の昼間に発生しましたが、防災組織の編成についても再考させられました。勤務者が不在であったケースが多かったため、我々の地域が甚大な被害を受けた場合、訓練時の手順どおりに対応できなくなることが懸念されます。新しい取り組みの一例として、参集しやすく体力や判断力の備わりつつある中学生など若い世代を防災活動に参加させることで、新たなアイデアの発掘や将来にわたる活動の継続性も図れるのではないかと考えております。

当協議会は設立15年を迎えましたが、スローガンであります「自分の命は自分で守る」「私たちの街は私たちが守る」を強く意識に持ち続け、災害対策基本法に規定されている「住民の隣保共同の精神に基づく自発的な防災組織」として、今後も防災活動を通して地域コミュニティの活性化を図ってまいります。

平成23年度活動報告

役員会・各部会を15回、その他事業については下記のとおり実施しました。

平成23年4月14日(木) 瑞沼市民センター避難所でのボランティア
避難所の清掃や 畳の入替えを実施。近隣の4ブロックの自主防災会から39名が参加。

平成23年6月12日(日) 総会・活動事例発表会
文化会館大会議室において実施。事例発表会では瑞沼市民センターの経験から「避難所運営と課題」をテーマに講演を実施。

平成23年7月10日(日) 自主防災訓練指導者養成講座
防災リーダーの養成。50名が受講し14名が修了。

平成23年10月19・28日 埼玉県自主防災組織リーダー養成講座(上級編)
DIG訓練の実施と新潟県おぢや震災ミュージアム等の見学に副会長2名と指導者ネットワーク代表の計3名が参加。

平成23年10月19日(水) 指導者ネットワーク全体会及び研修会
研修会では被災地派遣についての講演を実施。参加者44名。

平成23年11月から平成24年3月 ブロック情報交流会
全7ブロックで開催。各自主防災会の活動状況や運営上の課題などについて情報交換を実施。参加者計161名。

平成23年11月13日(木) 自主防災訓練指導者養成講座
62名が受講し7名が修了。

平成23年11月30日(日) 長野県安曇野市視察受け入れ
区長や市職員18名が来訪。連絡協議会やネットワークの活動内容等を説明。

平成23年12月15日(木) 機関紙「みさと自主防災報」発行
第15号を市内全世帯に配布。

平成24年2月7日(火) 羽生市視察受け入れ
自治会長や市職員66名が来訪。当協議会や三郷市自主防災訓練指導者ネットワークの活動内容等を説明。

平成24年2月19日(日) 自主防災訓練指導者養成講座

70名が受講し21名が修了。

平成24年3月17日(土) 防災講演会

国崎信江氏を講師に迎え「大規模災害への備え心構え」を演題に講演会を実施。来場者348名。

平成24年度事業計画

及び予算の概要

平成24年度総会において承認されました事業計画及び予算の概要は次のとおりです。

事業計画概要

- 平成24年6月9日(土) 総会、活動事例発表
- 平成24年6月17日(日) 自主防災訓練指導者養成講座①
- 平成24年7月～ ホームページ更新
- 平成24年7月28日(土) 第5回三郷学フォーラム
- 平成24年10月～ ブロック情報交流会
- 平成24年10月27日(土) 指導者ネットワーク全体会及び研修会
- 平成24年11月25日(日) 自主防災訓練指導者養成講座②
- 平成24年12月14日(金) 会報第16号発行・全世帯配布
- 平成25年1～2月 視察研修
- 平成25年2月23日(土) 第6回三郷学フォーラム
- 平成25年2月24日(日) 自主防災訓練指導者養成講座③

予算概要

収入については、会費、三郷市補助金及び前年度繰越金で、約133万円を見込んでいます。

支出については、約107万円の事業費を計上し、指導者養成講座、広報誌の発行、視察研修、ホームページの更新などの事業を進めてまいります。その他、事務費、会議費等を計上しています。

自主防災活動の実績	平成23年度自主防災訓練実績	訓練実施団体	71団体	参加者数	5,338名
	平成23年度資機材等整備状況	(補助金活用分)	36団体		

防災訓練のご紹介 みさと第二住宅自主防災会



私達の防災会は市の北部吉川市に隣接し、旧北郷小学校がすぐ隣にあります。5階建の公団分譲住宅21棟(管理棟含む)572世帯で、

防災会は管理組合の下部組織として活動しております。

班組織としては、①情報広報班 ②消火救出班 ③避難誘導班 ④給食給水班 ⑤衛生救護班 ⑥電気機械班の6班構成で、役員49名で活躍しております。

訓練は平成10年より単独訓練で毎年実施しており、訓練目標は居住者だれもが災害時に近所同士協力し、防災機材を使用して動ける体制づくりです。内容も傍観する訓練から体験する訓練として、棟別にグループ化し毎年変えています。

内容として、①避難伝達 ②情報収集 ③避難誘導 ④要援護者安否確認 ⑤テント組立 ⑥非常トイレ組立 ⑦負傷者搬送 ⑧AED使用救命 ⑨三角巾使用 ⑩炊き出し ⑪災害伝言ダイヤル ⑫消火器・天ぶら鍋消火 ⑬煙中歩行 ⑭救援物資配布(参加賞)と多様です。訓練は指導者養成講座の修了者をリーダーに、訓練時間は2時間30分位です。今年度の参加人数は192世帯(34%)306名(役員含む)男129名 女154名

みさと第二住宅自主防災会 本部長 浦島 富雄

子供23名と、平成21年より参加者が300名を超え、子供の参加も増えました。そのための活動として、防災親子スタンプラリー及び子供映画会の開催、9月の防災の日の週の土曜日に敷地内の防火施設などのポイントを巡り、防災を身近に感じてもらう親子の絆づくりや、防災関連の映画会を開催し、小さい時から防災学習をと考えております。

役員向けには、①防災夜間訓練の実施 ②班別に機材点検実施(隔月実施)機材の場所や作動確認を行い、補充するもの、期限切れを確認し次の点検まで済ませる。

住民には機材点検の日に合わせて、放送設備で非常袋の点検や階段消火器の清掃などの呼びかけを行っております。また、近隣の防災会との情報交換会も年2回ほど実施しております。

課題として要援護者に対する取組みが不足しております。訓練も大切ですが、防災は日常の生活の中から非常時に役立つものを考える工夫が大切だと思います。

来年は結成20周年を迎えます。役員も少々経年劣化の兆しはありますが、役員同士が防災会活動を通じてお互いに地域の仲間として、また少子高齢化社会に向けて、より安心して暮らせる街づくりのため、防災会はさらに一致協力して新鮮なアイデアと若々しい活動で、来年の結成20周年にむけて取り組んでおります。

避難所設置(運営)訓練 高州・東町地区町会長連合会

— 市内初の特化訓練 —

高州・東町地区11町会長連合会 会長 皆川 俊夫

これまで市内では試みたことのない避難所設置訓練を中心とした防災訓練を、去る24年8月5日(日)高州小学校において、高州・東町地区町会長連合会主催によって実施しました。

当地区では総合防災訓練は隔年で実施していますが、大規模災害が発生した場合、「避難場所」となっている小学校に被災された方々が集まってきた場合を想定し、学校長・地元消防団・安全推進課立ち会いのもと、体育館内および校舎内外で利用できる教室、校庭内の使用可能箇所等の確認を図面上と現場で行い、結果を図面におとす作業を試みました。

体育館では、どのくらいの人を収容できるのか、プライバシーの問題を含め町会の幹部および女性から見た収容施設のあり方等を、3班に分かれて平面での方法とプライバシーを重点に置いたダンボール使用による方法を試みてもらいました。1班のユニット利用の方法が早くて、利用できる人にとっては快適であるが、費用の高い点が難点であり、ダンボールのみの使用方法は時間がかかる点が浮かび上がりました。

通路幅や管理者のスペースなどを考慮すると、体育館内は思っていたよりも収容人員の確保がむずかしいことが判明するなど課題が山積となりました。



教室の利用についても、空き教室がバラバラで使い勝手に問題があり、校庭内の使用可能スペースも救援物資のテント施設、炊き出しスペースの確保、トイレの問題、雨天時の簡易休

テント等々を考えるとたくさん問題が浮かび上がって、これらの問題解決に向け今後も多方面からの検討と協力体制など、出来ることから直ぐにでも取りかかることが必要で、待ったなしの状況であると感じました。

このほか、避難所運営についても勉強を重ね、いざという時のために、今後も問題解決に取り組んでいきたいと思

火災のない安心して暮らせる街づくりを

事務局からご案内

今年も師走を迎え暖房機器を使用する季節となりました。三郷市では1月から11月までに、全焼10棟、ほや20棟の建物火災が発生していますが、空気が乾燥し暖房機器を使用する冬季は火災発生件数も多くなります。

暖房機器の使用を開始するときは、使用方法を今一度再確認し適正な使用を心掛けましょう。

また住宅用火災警報器の設置により、万が一火災が発生した場合でも素早く避難や通報ができるようになります。各自主防災会の防災訓練では初期消火訓練を実施していますが、技術の習得と警報器の設置とを併せて火災予防に努めま

しょう。

消火器 マメ知識 消火器の使用手順について「ピ・ノ・キ・オ」と覚えておくとよいです。

- ピ = ピンを抜く
- ノ = ノズルを持つ(かまえる)
- キ = 気合いを入れる
- オ = (レバーを)押す!



※「キ」は上記のほか、「気持ちを落ち着ける」や「距離をとる」などもあります。

自主防災訓練指導者養成講座

平成24年12月1日現在 延べ 391名

修了者

ブロック	第22回	第23回	第24回
早稲田	岩間 光彦 佐藤美木枝	浅賀 敏雄	藤代 功
早稲田 団地	桜井 康弘	笠原 公子	藤永 昌春
東和東	磯谷 修司 藤井 信行 梁取 弘行 野瀬 広道 関口 英康	関根 渡辺 石川 山中 田中 行雄 勲実 勉 淳	寺沢 常雄 菊地美代子 鈴木 誠二
東和西	布村 俊夫	野村 徹 島根 義一	浜島 慶悦
彦成	堀切 益夫 篠田 保	柴井 忠司 岡田 進 渡辺 孝司	篠田 浩 太田 忠正
みさと 地	小森 健司	我妻 英夫 金杉 訓男	岩尾 靖子 石崎 清一
さつき平	齊藤 重明 石川 利昭	丸山 一夫 中島 健二	塩崎 雅一

体験記

第21回修了者

早稲田ブロック 今野 和夫

東日本大震災は、「大災害はどこでも、必ず発生する」と、尊い命の犠牲と引き換えに教えてくれたのではないのでしょうか。そんな被害者を弔う気持ちもあり、自主防災会指導者養成講座で、私は初心者ながら最も難しいと思われる「三角巾」の指導者に立候補しました。それまで私は「三角巾」について、災害訓練で使用するための布、当然家庭でも常備していませんでした。しかし「三角巾」は、頭部、腕、足等のどんな部分も巻きつけられ、災害には優れたもので、不可欠であることを学びとりました。指導する際、原稿を作成し妻をモデルに5回以上模擬訓練しましたが、ただ「知る」と「わかりやすく教える」とは、格段の差があり、教員歴30年以上の私でも非常に困難でした。幸いにも受講者が、私のつたない説明を真剣に聞いてくれ、不明な点は先輩が支援してくれました。

私は、受講前の「災害はない」「万一の場合だけか〜」という安易な自分の考えを改めることとなりました。「自分や家族の命は自分で守るしかない」そのために1度は防災訓練に参加してください。又大災害のとき、養成講座修了者332名(平成23年12月1日現在)は、三郷の所定の場所で中心となり大活躍されるのでしょうか。本当に頼もしく思いました。

三郷市自主防災組織 連絡協議会役員

平成24年4月1日～

- 会長 中村 智英
(彦成2丁目町会)
- 副会長 菊地 靖孝
(東町みなみ町会)
- 副会長 齊藤 公一
(戸ヶ崎7丁目西町会)
- 会計 菅原みつ子
(みさと団地二街区)
- 幹事 村上香代子
(みさと第四住宅管理組合)
- 幹事 中嶋 暁
(さつき平1-3-1自治会)
- 幹事 塩崎 雅一
(テラ・ウエスト2-2町会)
- 幹事 田村 守
(栄3・4丁目町会)
- 幹事 加藤 和男
(鷹野2丁目町会)
- 幹事 宮田 隆男
(北美町会)
- 幹事 齊藤 寿夫
(早稲田つつみ町会)
- 幹事 三澤 正三
(三郷早稲田第四住宅管理組合)
- 幹事 高橋 賢
(谷口北町会)
- 監事 桜井 康弘
(三郷早稲田第五住宅管理組合)
- 監事 中田 満
(市助町会)

三郷市自主防災組織訓練指導者ネットワーク 新代表あいさつ

代表 岡本 正



指導者ネットワークは、三郷市自主防災組織連絡協議会が主宰する自主防災訓練指導者養成講座の修了者を対象に、平成19年10月に発足して今年で5期目になります。この間、多くの会員及び役員の皆さんが自主的に指導者ネットワークの事業運営に尽力され今日に至っております。

始めに、本年4月今後の更なる事業発展を目指して役員の交代を実施いたしました。新役員名は別掲のとおりです。今後ともよろしくご依頼申し上げます。

現在、ネットワークの会員数は122名となっており、養成講座修了者の3.5人に1人が会員となりそれぞれの場で活躍しています。

会員の主な活動は、①年3回開催される養成講座の指導(会員延べ72名)、②

各防災会が実施する防災訓練の指導リーダー、③市総合防災訓練への協力参加、④その他、年一回「ネットワーク全体会」(写真)を開催し、活動報告や行事予定、活動全般の意見交換会を行っております。この意見交換会では、課題に対する改善提案などが活発に議論されます。

現在の課題としては、新規登録会員の増員が鈍化しており、養成講座を1人も受講していない、又ネットワーク会員が1人もいない防災会があります。従って、対策としてはまずは養成講座を積極的に受講し、地域防災リーダーとなって訓練指導をして頂き、ネットワークに多くの方々の参加をお願いしたいと思います。

あの3・11東日本大震災で立証されたとおり、地域の絆の重要性は日本中多くの方が認識されたと思います。大多数の方が体験した、あの恐怖の瞬間は忘れることはできません。最近では、首都直下地震(予測震度6以上)の発生が大変危惧されていますので、日々の備えが肝心です。

我々ネットワーク会員も、地域防災について更に認識を高め、防災事業の一翼を担う所存であります。関係者皆様のご協力をお願いします。

【指導者ネットワーク役員】

代表	岡本 正	さつき平ブロック
副代表	甲賀 輝明	早稲田ブロック
副代表	藤井 経義	早稲田団地ブロック
幹事	石毛 元	みさと団地ブロック
幹事	高橋 三治	彦成ブロック
幹事	竹之内 満	東和東ブロック
幹事	吉田 弘子	東和西ブロック